

佳作

大井町線の車掌さんへ 笑顔くれる優しい路線1 東京都品川区 Mさん(34歳)	バスの運転手さんへ また乗車できますように。5 東京都江東区 Nさん(45歳)
心優しい2人の男子学生さんへ 守ってくれてありがとう1 神奈川県川崎市 Sさん(50歳)	國學院大學たまプラーザキャンパスの学生さんへ 命を救われた大雪の日5 神奈川県横浜市 Sさん(38歳)
あの時のおばあちゃんへ しわくちゃな手と小さなお裾分け1 神奈川県横浜市 Tさん(18歳)	自分が働いているお店のお客さまへ 想いをのせて“ありがとう”5 神奈川県横浜市 Nさん(40歳)
心優しいおじさんへ 大切な事を教えてくれてありがとう1 神奈川県茅ヶ崎市 Hさん(45歳)	かつて九品仏駅の駅員さんだった若井さんへ あたたかい思い出5 東京都世田谷区 Mさん(22歳)
盲目のランナーのOさんへ 今でも走ってますか?2 東京都目黒区 Hさん(72歳)	ピンクの帽子と上っ張りを着た保育園児のみんなへ 線路際からのエール6 東京都大田区 Oさん(65歳)
長津田車両工場の皆さん、横浜駅の皆さん、 東急グループの皆さんへ 息子を育ててくれるもの2 神奈川県横浜市 Sさん(37歳)	38年前の皆さんへ 乗って心もつながる6 東京都大田区 Yさん(47歳)
街で出会った見知らぬあなたへ コロナ禍での初めての妊娠、出産、 育児をして感じたこと2 東京都目黒区 Uさん(33歳)	過去からやって来て、忠告してくれた娘へ 線路は未来への滑走路6 東京都大田区 Sさん(65歳)
ポメラニアンのおばあちゃんへ 行ってらっしゃいに背中を押されて2 東京都大田区 Mさん(27歳)	東急線を利用しているすべての学生さんへ 東急線を利用している学生さんたちへ6 東京都世田谷区 Oさん(38歳)
駅にかかわるすべての方々へ ホームドアと娘3 東京都目黒区 Tさん(44歳)	東急線で視線で会話した女性と、 優しくフォローしてくださる東急線の皆様へ 1人で頑張るより素直に頼ることも大切7 神奈川県横浜市 Tさん(52歳)
のるるんへ のるるん10周年に「ありがとう」3 東京都大田区 Kさん(36歳)	青葉台駅のAさんへ 記念のきっぷ7 神奈川県横浜市 Iさん(75歳)
電車の中で出会った一年生の女の子へ ピカピカのあなたへ3 東京都世田谷区 Kさん(60歳)	娘と孫を優しく見守ってくださった皆様へ 皆様のおかげで電車移動を楽しめている娘と孫7 富山県富山市 Mさん(65歳)
東急渋谷駅のみなさん、渋谷の街を歩みなさんへ 昭和から平成、令和の時代になっても わくわくする街へありがとう3 東京都世田谷区 Kさん(56歳)	東急線の乗客と駅員の方へ ありがとうのバトンを繋いで7 東京都世田谷区 Hさん(35歳)
中目黒駅の駅員さん、もしくは東急の駅員の方々へ 笑顔の薬4 東京都杉並区 Kさん(54歳)	この企画を考えて下さった方々へ 心にほんのちよっとのスキマを8 神奈川県横浜市 Tさん(34歳)
東急沿線の住民の人へ 笑顔があふれる街4 神奈川県川崎市 Mさん(48歳)	あの日声をかけてくれた方々へ 行きつけのスーパーができた理由8 東京都品川区 Sさん(23歳)
息子へ 『東急線 ～母と父と、これから、息子～』4 神奈川県横浜市 Hさん(29歳)	東急電鉄にお勤めの皆さまへ いつも感謝しています8 東京都世田谷区 Tさん(45歳)
中華料理店「天々来」のご主人へ 財布が結んだご縁4 東京都港区 Hさん(57歳)	声をかけてくれた運転士さんと整備士さんへ 世田谷線が、もっと好きになりました8 東京都世田谷区 Aさん(35歳)

佳作

- リストラになって都内へ通い続けてた父へ
無口な父と家.....9
東京都世田谷区 Tさん(28歳)
- あの時、田園都市線で優しい視線を送ってくれた皆様へ
心に余裕が生まれた日.....9
東京都世田谷区 Oさん(28歳)
- ある駅の駅員さんへ
言えなかったお礼の言葉.....9
神奈川県横浜市 Kさん(34歳)
- 東急東横線の電車の車掌さんへ
電車好きの息子をその日一番の笑顔にしてくれた出来事.....9
神奈川県横浜市 Yさん(45歳)
- ShibuyaHikarie号へ
命と心.....10
神奈川県横浜市 Nさん(55歳)
- 図書館の司書さんへ
娘の成長を感じた喜び.....10
神奈川県横浜市 Aさん(49歳)
- 助けてくれたご夫婦へ
ありがとうをもう一度.....10
神奈川県横浜市 Sさん(35歳)
- 渋谷・東急本店様へ
夢のような瞬間をありがとう.....10
東京都大田区 Mさん(56歳)
- あの時、駅で私を助けてくださった方へ
ふたたびのお礼.....11
東京都大田区 Iさん(27歳)
- 田園都市線の運転士さん、車掌さんへ
いつも元気をもらっています!.....11
神奈川県大和市 Kさん(35歳)
- 満員車両の中で優しく声をかけてくれたお姉さんへ
満員車両での心温まる思い出.....11
神奈川県横浜市 Mさん(45歳)
- あの日声をかけてくれた女性と、紙袋をくれた男性へ
優しさが呼んだ次の優しさ.....11
東京都練馬区 Uさん(36歳)
- お肉を買ってくださったお客様へ
お客様からの贈り物.....12
神奈川県横浜市 Kさん(61歳)
- ブティックの店員さんへ
渋谷東急プラザの思い出.....12
東京都調布市 Kさん(64歳)
- 西小山の街へ
母と私を笑顔でつないでくれる街.....12
東京都目黒区 Hさん(47歳)
- 母へ
町も人も。これは、生きている音。.....12
東京都大田区 Kさん(35歳)
- 東急ベル、東急ストアの皆様へ
東急ベル、東急ストアにありがとう.....13
東京都町田市 Yさん(60歳)
- 助けてくれたあなたたちへ
渋谷センター街での救助要請.....13
神奈川県横浜市 Hさん(61歳)
- 菊名駅13時49分の森林公園行きの特急で出会ったあなたへ
車内に優しい風がふいた日に.....13
神奈川県横浜市 Sさん(68歳)
- 私が救った人へ
おせっかいな勇氣.....13
神奈川県川崎市 Nさん(58歳)
- 10号車でベビーカーに乗っていた赤ちゃんへ
10号車の小さな君へ.....14
東京都世田谷区 Yさん(24歳)
- 大井町線内で出会った女の子へ
失恋とボタン.....14
神奈川県川崎市 Sさん(51歳)
- 寿司職人さんへ
渋谷の小さなお寿司屋さん.....14
東京都目黒区 Mさん(35歳)
- 新丸子駅(東急ストア前)のベンチへ
拝啓 新丸子駅のベンチ様.....14
東京都三鷹市 Kさん(46歳)
- 天国におられる田村校長先生へ
つくし野の街に残る環境学習のための「畑」.....15
東京都町田市 Kさん(66歳)
- 駅員さん(&見知らぬ方?)へ
執念の再会.....15
神奈川県大和市 Sさん(55歳)
- 2019年2月 大岡山駅にいらした駅員さんへ
駅員さんからのエール.....15
東京都大田区 Kさん(53歳)
- あの日の優しいお姉さんへ
ほどけた靴紐.....15
神奈川県横浜市 Oさん(30歳)



大井町線の車掌さん へ

東京都品川区 Mさん(34歳)

笑顔してくれる優しい路線

大井町線がだいすきな発達障がいがある息子。
東急の駅名キーホルダーを首からぶらさげてます。
その日は、通院で利用していました。
通院先の処置が痛くしょんぼり顔の息子、
処置の介助と医師からの告知でショックと疲労困憊の私とで
最後尾車両ドア付近でぐったりしてました。
急行の通過待ちで停車していたとき、車掌さんが声をかけてくれ
「電車すきな?これどうぞ」と、車両カードを息子に。
しょんぼり顔からキラキラの笑顔にかえていただきました。
私も心温まるやりとりで暗い気持ちから救われました。
今でも、息子はパスケースに車両カードを宝物として入れてます。
あのときは、本当にありがとうございました。
これからも親子の推し路線です。

心優しい2人の男子学生さん へ

神奈川県川崎市 Sさん(50歳)

守ってくれてありがとう

40年以上も前の出来事だけど、今でもそのときのことを鮮明に覚えている。私が小学1年生で満員電車で通学していたときのこと。
制服を来た男の子2人が私のそばに来て「こんなに小さいのに電車で通っててえらいなあ〜」って言って2人が壁になって私が潰されないように守ってくれた。いつも同じ車両に乗っていた私を見つけて、それからしばらく彼ら2人が私を守り続けてくれた。
男子学生の2人のおかげで、大きい大人がいっぱいて息苦しい満員電車が私にとって「安心の空間」「優しい時間」になった。
私より10歳ほど年上だから、今はきっと60歳ぐらいかなあ。
お元気でお過ごしですか?
あのときは本当にありがとうございました!
人の優しさや温かみに触れることができ、
今も心から感謝しています。

あの時のおばあちゃん へ

神奈川県横浜市 Tさん(18歳)

しわくちゃな手と小さなお裾分け

お元気ですか?私はもう大学生になりました。今日はあの時言えなかった気持ちを伝えます。当時私は高校生だったね。学校の帰り、市ヶ尾のベンチで泣いていた私はあなたにはとても目立って見えたのかな。すぐ話しかけにきてくれたね。私は話したんだ。大好きだった祖父が死んじゃったこと。あの時の私は人生で初めて大切な人を亡くして本当絶望的だったなあ。いつもだったら楽しい友達の話も、笑えるくらいにうるさい男子たちの声も、その日だけは全然耳に入らなくてさ、学校では堪えてたのに電車を降りた瞬間我慢できなかったの。そんな時、「大丈夫大丈夫」っていちごの飴をくれたのを覚えている?飴を渡そうと私の手を掴んだおばあちゃんの手が安心でもっと泣いちゃったっけね。そのせいで何も伝えられなかったんだ。あの飴すごく甘かったよ。涙のしょっぱさも忘れちゃうくらいに。おばあちゃんの言う通り私大丈夫だった。元気が出た。本当に、ありがとう。

心優しいおじさん へ

神奈川県茅ヶ崎市 Hさん(45歳)

大切な事を教えてくれてありがとう

友達と外で遊んでいた時、突然の土砂降りに見舞われ傘がなく子供なのでお金も所持しておらず携帯電話もない時代。駅で雨宿りをして途方に暮れてた所「傘持ってないの?家が近くだから持ってきてあげるね。」という方に傘をお借りしました。「この傘どうすればいいですか?」と聞くと「返さなくていいよ。お家で使ってもいいし、今度困った人に君があげるといい。良い事をすればそれが自分に返ってくる。悪い事をすればそれも自分に返ってくる。」と教えてもらいました。数年後偶然駅でお見かけし「あの時はありがとうございました。」とお礼を述べたのですが、「そんな事あったかな?」と。恐らくいつも周囲に親切にしているので一つ一つを覚えていないのかも知れません。あれから私もあのおじさん程ではないにしろ困っている人がいれば助けてあげますし、子供にもそう伝えていきます。親切にして頂き人として大事な事を教えて頂き本当にありがとうございました。

佳作

盲目のランナーのOさん へ

東京都目黒区 Hさん(72歳)

今でも走ってますか？

白杖を手にいつも笑顔で綱島駅に現れたあなた。「今日もよろしく」と声を掛け二人の間を30センチほどのロープでつなぎ鶴見川に向かいましたね。あなたは当時としては珍しいパラ・ランナーで、私はその伴走者。車の通らない河川敷は格好の練習場である時は薫風を、またある時は寒風を身に浴びて走ったことを今でも覚えています。春先に「鳥の鳴き声が素敵ですね」と言われたあなたに、私は目のご不自由な方はこんなにも耳からの情報に鋭く反応するのだと驚きとともに教えられた思いがしました。それは「もっと五感を大切に！」と思い知らされた時でもあります。別れぎわ「ありがとうございました」というあなたに私は「こちらこそ何倍もありがとう！」と、自分では体験できない世界を教示していただいたことに感謝しておりました。そして今でもあなたがふとつぶやいた「視力を失ったことは不運ではありましたが不幸ではなかった」という言葉が胸をよぎります。

長津田車両工場の皆さん、横浜駅の皆さん、
東急グループの皆さん へ

神奈川県横浜市 Sさん(37歳)

息子を育ててくれるもの

先週は車両工場ファン感謝デーに参加、今週はスタンプラリー達成の応募に当選した息子が駅長体験させて頂きました。普段の業務に加え至れり尽くせりのサービス精神に敬服するばかりです。ファン感謝デー？駅長体験？いいえ、こちらこそ東急に「ありがとう」です。息子は駅名標で漢字を、駅のアナウンスで漢字の読みを、駅ナンバリングでアルファベットを覚えました。路線図で全駅名覚えた後は沢山乗車して時間感覚や距離感を養い、スタンプラリーで伊豆と上田に行ったこともあって小2で既に日本地図バッチリです。そして今回の車両工場と駅長体験で、東急線を支える人がいることをしっかり学んだと思います。東急大好きな息子は、毎日電車の音が聞こえる沿線に住んでいるからこそ育てています。東急が、東急を支えてくれる皆さんが、息子を育ててくれています。今日も電車に乗った息子はきっと少し成長したはず。一緒に育ててくれてありがとう。

街で出会った見知らぬあなた へ

東京都目黒区 Uさん(33歳)

コロナ禍での初めての妊娠、出産、育児をして感じたこと

初めての妊娠が分かり、悪阻が始まった頃、コロナが日本に広まり始めました。マスクをしながら通勤していると、見知らぬ方に席を譲っていただき、心が温かくなったことを覚えています。お腹が大きくなったからも、街のお店の方に「もうすぐ生まれるんですか？頑張って下さい」と声をかけていただき、出産時、面会や立ち会いが一切できない状況で不安に思っていた中、とても心強い気持ちになりました。子を無事出産し、ようやくベビーカーや抱っこ紐で短いお出かけができるようになった頃、街の方から温かい視線や、「かわいいね、何ヶ月？」と言った言葉をもたらえたこと。スーパーで赤ちゃん連れで買い物をしている時、精算後のカゴを荷物置き場までレジの方が運んでくださったこと。一つ一つの出来事が、いつも街の方に見守られているなと感じました。いつかその温かさを誰かに与えられるよう、子育て頑張りたいと思います。

ポメラニアンのおばちゃん へ

東京都大田区 Mさん(27歳)

行ってらっしゃいに背中を押されて

私には地元に戻った時に伝えたいありがとうございますがあります。私は中学生の頃から東急線を使って通学していました。当時の私はとても内気で、学校の雰囲気になれず、学校が億劫でした。そんな私の学校に行く原動力は、朝7時半に最寄りの改札の外にいて、「行ってらっしゃい！頑張って！」と声をかけてくれる、もふもふのポメラニアンを連れただおばちゃんでした。おばちゃんのあたたかくて明るい声を聞くと、自然と背筋が伸びて笑顔になりました。「学校に行きたくないな」と思いつつも、おばちゃんに心配をかけたくないというから足を前に進められた日が沢山あったことを覚えています。次第に学校に馴染んで、一生のお友達も、夢も見つけることができました。私にとっておばちゃんはかけがえのない恩人です。私は今、地元を離れて、夢に向かって毎日一生懸命過ごしています。地元に戻ったらおばちゃんに「行ってきます」と、ありがとうございますの気持ちを伝えたいです。

佳作

駅にかかわるすべての方々へ

東京都黒区 Tさん(44歳)

ホームドアと娘

毎朝、小学生の娘と、東急線の最寄り駅まで一緒に歩いていきます。駅の改札を入ったところで、娘に「行ってらっしゃい」と言い、娘も「パパもがんばってね」と返してくれた後、行き先は逆方向なので、階段の手前で別れてそれぞれのホームに向かいます。ホームで自分が乗る電車を待ちながら、向かい側のホームに目をやると、入学したばかりの頃はホームドアのかけに隠れて見えなかった娘の姿が、2年生になると帽子だけ見えるようになりました。3年生になると、娘の顔が少しだけ見えるようになりました。娘の成長を教えてくれる、そして、安全を守ってくれるホームドア。安全安心な駅を整えてくださるすべての方に、ありがとうございます。

のるるんへ

東京都大田区 Kさん(36歳)

のるるん10周年に「ありがとう」

コロナで、のるるんにパタリと会えなくなりました。以前は、街中で、週末のイベント中心に、気軽に会えていたのるるん。のるるんが登場するイベントをきっかけに、初めて行った駅、初めて行った街、初めて乗る電車、初めて参加したお祭り、色々あったな。駅員さんやイベントスタッフさん、その街の住民の皆さんとたくさん笑ったな。会えない時間は、のるるんに「ありがとう」と言いたくなる無数の瞬間を、私に思い返させた。コロナが少し落ち着き、また街で、のるるんに会える機会が増えてきた。のるるんの周辺にいる駅員さん、子供たちは、どこかしら、以前より笑顔に見える。のるるんが戻ってきて、沿線の風景は、より一層、輝いていた。私は、この瞬間が大好きだ。のるるん、10周年おめでとう！そして、10年間、のるるんのいる沿線の風景を作りあげてくださった、すべての方に、ありがとう！のるるん、これからもずっとずっと大好きだよ！

電車の中で出会った一年生の女の子へ

東京都世田谷区 Kさん(60歳)

ピカピカのあなたへ

「どうぞ」と言って初夏の世田谷線で席立ったあなたは真新しい制服の小学一年生。「え？」でも私もまだそんなに歳でもないしそのピカピカのランドセル、あなたにはとても重そうだよ。「大丈夫よ」って言葉が口をついて出そうになった時、頭の中に浮かんだの。入学して少し日にちが過ぎて、一人で電車に乗って学校に通うあなたにきつとお家の方が色々気をつけなきゃいけない事を教えてくださったんだよね。その中にあなたは元気なだから電車では席を譲るのよってお話もあってそれを思い出したあなたは勇気を出して声をかけてくれたんだよね。お礼を言って座らせてもらいました。あなたの笑顔と優しい気持ちでその日は私にとってとっても良い1日になりました。ありがとう。

東急渋谷駅のみなさん、渋谷の街を歩くみなさんへ

東京都世田谷区 Kさん(56歳)

昭和から平成、令和の時代になっても
わくわくする街へありがとう

コロナ明けも近いかな？という令和4年の秋、埼玉県に暮らしている母が、「渋谷」に行ってみよう。とはるばる電車を乗り継いで一人散歩に出かけてきた。東急沿線住まいの私が語る最近の渋谷の街の移り変わりに触発されての思い付きだった。「昔、お父さんとよくデートしたことがあるから大丈夫よ。」と自信たっぷりに出かけてきた83歳の母。副都心線の改札を出て、ヒカリエでクレープを食べて、ビルの谷間のデジタルサイネージの写真をデジカメに収めて、スクランブル交差点を渡り、東急本店まで、83歳の母にとっては大冒険だったと思う。私との待ち合わせ場所まで無事にたどり着いた母は、「ぜんぜん迷わなかった。駅員さんも、通りすがりの大学生の女の子も、カフェの店員さんもみんな親切にわからないことを教えてくれたから。楽しかった！」と得意げだった。普段は忙しく通り過ぎるだけの渋谷の街が、ぐっと身近に、愛せる街になったような気がした。



中目黒駅の駅員さん、もしくは東急の駅員の方々へ
東京都杉並区 Kさん(54歳)

笑顔の薬

それは社会人になりたての頃、朝早く、夜は残業ばかりの日々。
やりがいはあるけど体はクタクタ。
束の間の電車タイムはいつも寝てしまい。
いつもは中目黒で乗り換えなければいけないに、
ある日の私は渋谷まで寝てしまっていた。
その時、「お客さん、お客さん、起きてください」と優しく駅員さんが
起こしてくれた。しかも「疲れてるんですね。頑張ってくださいね！」と
あたたかな笑顔と家族のような労りの言葉。
連日の激務と自分のやるせなさにかなり落ち込んでいた時だったので、
心に沁みました。その時の駅員さん、
お陰様で今も元気でふたりの母になりました。
あの頃よりはかなり遅くなりました。
お名前も知らないですがありがとうございました。

東急沿線の住民の人へ
神奈川県川崎市 Mさん(48歳)

笑顔があふれる街

東急沿線の住民の人へのいつもありがとう・・・と伝えたい。毎日通勤で
利用している東急線の駅がいつも清掃されている。毎日ありふれたこと
だが、そこには多くの人たちが協力し合い支えられているものであった。
人の目を気にして当たり前のことでもなかなかできないことが沢山ある。
近年では見て見ぬふりをして過ごすことが多い現代社会で、つい先日
この世も捨てたもんじゃないなと感銘することがあった。改札近くで
ゴミが落ちていた。両手が荷物でふさがっているにもかかわらず、立ち
止まって落ちていたゴミをわざわざ拾っている人がいた。重い荷物を持ち、
階段を登るのを苦労していた高齢の人を中学生の男子がお手伝い
していた。亡くなった祖母も、足が悪くて駅員さんや住民の人にたくさん
助けてもらったと感謝していたのを思い出した。ささいな気遣いが
できる東急沿線にはたくさんの人が住んでいて、自然と笑顔があふれる
街にいるんだと心が温かくなった。

息子へ
神奈川県横浜市 Hさん(29歳)

『東急線～母と父と、これから、息子～』

1歳7ヶ月になる息子へ。一昨年はまだ肌寒い春、田園都市線沿いの
病院で君が産ぶ声を上げた。その日から夫婦だった私たちは「父」と「母」
になり、目まぐるしく大変で、でも想像以上に幸せな日々が始まったんだ。
実家が2人とも田園都市線沿いな私たちは、恥じらい混じりの告白、
初めてのデート、入籍届の提出、夫婦の数え切れない大切な経験を
この街でしてきたんだよ。でも君の産まれたその日から、29年慣れ親し
んだこの街が、なんだか違った色合いで見えたんだ。ベビーカーでは
通れない道がたくさんあること、いつも使っていたトイレにおむつ台が
あったこと、電車やバスの車掌さんは笑顔で手を振ってくれること。
全部、君と過ごす日々が教えてくれた。君がいつまでこの街で一緒に
暮らしてくれるかはわからないけれど、毎日毎日「今」を大切に過ご
そう。って君の成長に気づく度にそう思うよ。私たちが育った街と君が
産まれたこの街に「ありがとう。」

中華料理店「天々来」のご主人へ
東京都港区 Hさん(57歳)

財布が結んだご縁

今から2年ほど前のことです。武蔵小山で用事があり、夜八時半過ぎに
解放されたのですが、コロナで飲食店が閉まるのも早く、商店街の出口
近くで中華料理屋の明かりを見つけて、店に入りました。閉店が9時
ということで、急いでラーメンを食べました。港区内の自宅に着いて、
財布が無いことに気が付いたのは、その日の夜10時半過ぎでした。
ラーメンは現金で支払いをしましたので、インターネットで「天々来」
という先ほどのお店の電話番号を調べました。電話を掛けると、お店の
ご主人がすぐに出られました。私の財布は預かっていると。私が困って、
電話をしてくるのではないかと、店の中にいらしたそうです。
実は、私が店を出た後、私の財布をもって、武蔵小山駅の方面を探された
とも。翌日、お店で味噌ラーメンを食べながら、北海道出身のご主人と
いろいろお話をしました。財布が戻って嬉しかったのですが、それ以上に、
ご主人の人柄に感動しました。

佳作

バスの運転手さん へ

東京都江東区 Nさん(45歳)

また乗車できますように。

その日は朝から蒸し暑い日でした。通勤途中のバス車内は込み合い、私はつり革につかまっていた。乗車後少し経ち運転手さんの運転がとても丁寧な事に気が付きました。運転が丁寧な運転手さんは沢山います。その日の運転手さんは、丁寧な運転をしながらさらに適宜アナウンスしてくれる運転手さんでした。「社内が込み合い蒸してきたので、弱めの冷房をいれますね」「緩やかな坂道に入りますね」等々、乗客に語り掛けるよう優しい口調でアナウンスしてくれました。

その日の朝、私は小学高学年の息子と口喧嘩をしてしまい、落ち込んでいました。しかし、私は丁寧な仕事と気遣い触れ、バスを降りる頃には気持ちの落ち込みはリセットされ、とても清々しい気持ちで三軒茶屋の駅に降り会社に向かう事ができました。その日の通勤でお世話になりました運転手さん、またあなたのバスに乗車出来ますように。

ありがとうございました。

國學院大學たまプラーザキャンパスの学生さん へ

神奈川県横浜市 Sさん(38歳)

命を救われた大雪の日

5年前の大雪の日、雪を甘く見ていた私は子供の保育園のお迎えに車で行ってしまいました。当時4歳と1歳の子供を乗せて何とか保育園を出たものの、そのまま上り坂を上げずにスリップ、完全にタイヤが空転して止まってしまいました。このまま車を道路に乗り捨てて(実際に乗り捨てられた車がそこかしこにありました)、子供をかかえてバスと徒歩で帰らないといけなかと途方に暮れていました。そんな時に通りかかった國學院大學の屈強な男子学生さん10人程が「みんなこっち! 押して!」と、車を雪がある程度溶けている大通りまで押して運んでくれました。その日は一晩車を駅前に駐車することにし、東急バスと徒歩で何とか帰ることが出来ました。國學院大學の学生さんは、日頃から雪が降ると駅からキャンパスまでの道を雪かきしてくれたりと、地域活動にも参加してくだり大変感謝しております。本当にあの日は命を救われました。ありがとうございました。

自分が働いているお店のお客さん へ

神奈川県横浜市 Nさん(40歳)

想いをのせて“ありがとう”

私は、たまプラーザ駅の施設で働いています。

家から徒歩で通える今の職場が、とても大好きです。

自分が働いているお店のお客さんで、出勤時に、たまにすれ違う方がいらっしゃいます。いつも笑顔で、お名前まで呼んでくださって『おはようございます!』と声かけて下さいます。

結婚してからこの街に住んでいるので、知り合いが少ない中、たまプラーザというこの街で、『おはようございます』とお声かけしてもらえるのがとても嬉しく、お会いできた日は、“今日1日素敵な日になりそうだな”と前向きな気持ちになります。

お互い挨拶だけになってしまいますが、私は『名前を呼んで、朝の挨拶をして下さって、ありがとうございます』と、言いたくなる瞬間です。

レターを通して“ありがとう”届けたいです。

かつて九品仏駅の駅員さんだった若井さん へ

東京都世田谷区 Mさん(22歳)

あたたかい思い出

とってもお久しぶりです。私のこと覚えていますか?

もう10年以上も前、今22歳の私が小学生だった頃の話です。

パスモにお金がなく、100円貸していただいたのがきっかけで、私は若井さんとお話するようになりました。学校の行き帰り、九品仏の改札を通る度に、「今日もいるかなあ」とわくわくしながら駅員室を覗いていたことを覚えています。そこで若井さんとおしゃべりできるのがすごく楽しみでした。いつも明るく優しく、挨拶してくださり、お話ししてくださいました。思い出す度にとてもあたたかい気持ちになります。小学生の私に親切にしてくださって、そしてすてきな思い出をプレゼントしてくださって、ありがとうございます。

いつしか会えなくなってしまいましたが、もう一度会って直接ありがとうございますを伝え、そして今の成長した私をぜひ見ていただきたいです。

(かなり前のことで記憶が曖昧で、お名前間違っていたらごめんない。)



ピンクの帽子と上っ張りを着た保育園児のみんなへ
東京都大田区 Oさん(65歳)

線路際からのエール

あなたたちは、まだ、小さすぎて、この手紙を読めないかもしれないね。今朝は、ピカピカの笑顔で手を振ってくれてありがとう。お揃いのピンクの帽子に上っ張りを着て、下丸子と鵜の木駅の中間地点で線路際の柵にしがみつこうにしながら、ちぎれんばかり、元気よく身体じゅうで手を振ってくれたね。電車で揺られながら、スマホから顔を上げて見つけたあなたたちの笑顔。朝の陽ざしに負けない大きな笑顔。「行ってらっしゃーい!」「バイバーイ」「またねー」みんなの声が聞こえたような気がしたよ。他にも気が付いて、小さく手を振り返した乗客もいたと思うわ。あなたたちはね、ただ電車が好きなだけかもしれないけれど。おぼちゃん、今日も元気に頑張ろうと思った。明日も、明後日も、そうやって笑顔で元気よく「またねー」って、手を振ってくれたらとっても嬉しいな。これから冬になって寒くなるから、あったかくしてね。

38年前の皆さんへ
東京都大田区 Yさん(47歳)

乗って心もつながる

1984(昭和59)年の夏。当時小学4年生だった私は、ワクワクとドキドキを胸に詰め込み、東急線に乗っていました。その年に初めて開催されたスタンプラリー「東急89駅小さな旅」に参加するためです。7路線89駅のすべてに設置されたスタンプを1駅ずつ集めていく。思い切って「ひとり旅」としましたが、行く先々で多くの人と出逢い、声を掛けられ助けられました。かまぼこ型の地上駅舎とハチ公口から下りる地下ホームの移動に苦勞していた渋谷駅で。わが家から遠く離れ、カラータイルが目新しい異国の地に来たような中央林間駅で。造船工場の印象が色濃く残り、子供ひとりでは目立った桜木町駅で。各駅では、駅員さんがきっぷを確認しながら旅を見守ってくれました。今も手元にある日焼けしたスタンプ帳としわくちゃになった乗車券をながめると、38年前を思い出し、あの時出逢った方々に改めて「ありがとう。」と言いたくなりました。

過去からやって来て、忠告してくれた娘へ
東京都大田区 Sさん(65歳)

線路は未来への滑走路

立派な社会人となった娘から豪勢なディナーをご馳走になるのは、ある種の父親冥利でした。二子玉川の店を出て、「酔いを醒ましたいから、河原を歩こう」と君は言い出しましたね。「小学生の頃、親父ここでアホくさいこと言ってたよね。二子玉川はビックリするほど発展する未来の街だとか、線路は未来へテイクオフするための滑走路だ、とか」20数年前、河原の清掃に父娘で参加した日のこと、覚えていたんだね。「でも、会社で毎日毎日、目先の売上とか儲けのことしか口にしない大人に囲まれていると、何だか親父はピュアだなんて思うようになった」私は恥ずかしくなっていました。今や、君の会社の人達と同じ人間でしかないのだから。あの日の幼い娘が過去からやって来て田園都市線にランディングし、ピュアさを失った私に忠告してくれた気がしました。できる限り、あのアホくさい父親に戻るべく努力するよ。ご馳走様&ありがとう!

東急線を利用しているすべての学生さんへ
東京都世田谷区 Oさん(38歳)

東急線を利用している学生さんたちへ

毎日電車に乗ると色々な学生さんと一緒になります。
つまらないゲームを教えあっていた学生さん。
思わずくすつとしてしまいました。ありがとう。
電車の中で一生懸命勉強している学生さん。
社会人になると一生懸命さを忘れてしまいそうな時があります。
思い出させてくれてありがとう。席を譲っている学生さん。
自分もちゃんと気がついて譲るようにしないとほんとさせられます。
ありがとう。色々な学生さんの振り舞いから大人になって
自分が忘れてしまった気持ち行動を思い出すことが出来ます。
ありがとう。私も学生さんにガッカリされないような
大人でいられるよう頑張っていきたいと思います。

佳作

東急線で視線で会話した女性と、
優しくフォローして下さる東急線の皆様へ
神奈川県横浜市 Tさん(52歳)

1人で頑張るより素直に頼ることも大切

今年、髄膜腫の手術で頭を24針縫う。血管に凄く食い込んでいて、手術後足首から下が麻痺。毎日丁寧なりハビリをうけ徐々に歩ける様になり、退院し、仕事にも復帰。足の指にだけ麻痺が残り、杖を使い、ヘルプマークを鞆につけ通勤。東急線の方は優しく席や手すりを譲って下さる。ありがたい!しかし通勤で皆様も疲れているのに申し訳ない、ヘルプマークを鞆に隠し、手すりをギュッと握りしめ、誰にも迷惑がかからない様にと頑張る日々へ。そんな時、反対側の遠くの座席の女性と視線が合い『大丈夫?ここ座る?』と視線で会話。『大丈夫です!ありがとうございます』と視線で返す。遠くの席から隠した細かい所にも気付いて下さり、直ぐにサポートをとの気持ちが嬉しく、降りる時にお礼を伝える。「もっと早く気付けば良かったのね。お互い様よ!困った時は頼るのよ!」との言葉に今、東急線の皆様を頼る日々です。皆様、本当にありがとうございます!

青葉台駅のAさんへ
神奈川県横浜市 Iさん(75歳)

記念のきっぷ

青葉台駅のAさん、先日はとても嬉しかったです。あなたの一言が、あの時ばかりは私には特別な言葉に感じられました。あの日、私はとても懐しい人と都内で偶然出会いました。二人とも用事の途中で、ほんの立ち話をしただけで別れました。何と約30年ぶりでしたが、互いに元気なことをアピールしあい、ごく手短かに近況を交わしました。昔と同じように、とても爽やかな笑顔の彼女が今でも忘れられません。さて帰路、私はふとこの日の思い出として、日付けの入った「東急東京メトロパス」きっぷを、家に持ち帰りたいと、思いついたのです。脇の改札口に回り、「きょうは良い日だったので、記念に持ち帰りたい」と言いました。すると、あなたは「おめでとうございます」とおっしゃいました。私は驚き、反射的に「ありがとうございます」と言っていました。きっとご記憶にないと思いますが、私にとっては本当に素晴らしい一言でした。

娘と孫を優しく見守って下さった皆様へ
富山県富山市 Mさん(65歳)

皆様のおかげで電車移動を楽しんでいる娘と孫

娘の移動はもっぱら電車で、赤ちゃん連れの電車移動にははじめはととても緊張していました。地方から上京し、親元を離れ友人もいない中での初めての子育てをしている娘のことを心配しておりましたが、毎回電車で話しかけられるそうで「何ヶ月?かわいいね!」「ママお疲れ様ね」「子育ては一瞬よ!思い切り楽しんでね」等、多くの方が優しいお言葉をかけて下さる!と私に喜んで教えてくれます。実際私も一緒に移動した際に駅員さんが孫に向かって笑顔で手を振ってくれました。駅員さんを始め、乗り合わせた皆様が娘と孫を東急線内全体で見守って下さっている温かい雰囲気を感じ嬉しかったです。移動中子育ての話で盛り上がったり、励ましのお言葉をかけて下さり元気が出た!等、娘から話を聞く度に皆様の優しさに心が温まる私です。娘と孫は皆様のおかげで電車でのお出かけを楽しんでいます。皆様心からありがとうございます。

東急線の乗客と駅員の方へ
東京都世田谷区 Hさん(35歳)

ありがとうのバトンを繋いで

東急線に移り住み約10年。私はこの街が好きだ。乗客と駅で働く人々の優しさと温かさを感じるから。今、心に留めていた「ありがとう」を送りたい。朝の通勤ラッシュの電車の中。体調を崩してしゃがみ込んだ私に気がついて「大丈夫?」と声をかけ、席を譲って下さった乗客の方。足の具合の悪い方に気づき声をかけようとした私より早くがさと席を立ち、「どうぞ」と席を譲った向かいの席の方。駅の階段でスーツケースを運んでいた年配の方に、「運びましょうか?」と声をかけていた男女。雪が降る真冬の駅のホームで体調を崩した私を、救護して休ませて下さった駅員の方。座席に置き忘れた傘を「忘れてますよ」と手渡して下さった方。そんな方々の優しさに今日、たくさんの感謝を込めて「ありがとう」を送りたい。そんな私は今日も落とされたマフラーの持ち主を追いかけて走る。「ありがとう」の連鎖を絶やさぬように。



この企画を考えて下さった方々へ

神奈川県横浜市 Tさん(34歳)

心にほんのちょっとのスキマを

こんにちは。東急グループ創立100周年おめでとうございます。
この企画を考えて下さった事に【ありがとう。】って、私は感じました。
10月から配属先が変わり、とても忙しい場所で覚える事が
沢山あったり、慣れなкゃーと心に余裕がない日を過ごしてます。
そんな時、最寄りの駅でこの企画を見つけました。
気付いたらパンフレットを手にとって考えてる自分が居ました。
【ありがとう。】と言いたくなる瞬間って最近あったかなーと考えてみました。
なかなか出て来ないんです。仕事の事で頭がいっぱいで心に余裕がないんだな
って気付きました。私は、人生において全ての出来事に
何らかの意味があるって信じて生きているので、【ありがとう。】って思えるのは
心に余裕がある時なんだなって、この企画を通して感じました。
だから、この企画を考えて下さった方々に感謝したいです。
ありがとう。ありがとう。また、明日から頑張ります。

佳作

あの日声をかけてくれた方々へ

東京都品川区 Sさん(23歳)

行きつけのスーパーができた理由

ある日進路や友人関係で悩んでいた私は最寄り駅を一つ早く降りて
しまい、ついでに駅の東急ストアで夕飯を購入しようと思いました。美味し
そうなお弁当といくつかの品物をカゴに入れて、レジに並びました。
悩みで頭がいっぱいだったその時、カゴを傾けてしまい品物とお弁当の
中身を床に落としました。自分のミスで頭が真っ白になったその時、
「大丈夫ですか？」と後ろにいた女性が声をかけてくれました。ショックで
呆然とした私を心配して落とした品物を拾い上げ、店員さんと呼んで
くれました。店員さんは素早く床を掃除しつつ「気にしないで大丈夫
ですよ、汚れたりしていませんか？」とショックを受けていた私を気にか
けてくれました。お二人がこのことを覚えているかはわかりませんが、
あの日落ち込んでいた私はこのお二人のおかげで確実に救われました。
ありがとうございました。この日から一駅遠い東急ストアは私の行き
つけのスーパーになっています。

東急電鉄にお勤めの皆さまへ

東京都世田谷区 Tさん(45歳)

いつも感謝しています

ほぼ毎日東急線に乗っています。大雨の日でも、強風の日でも、世間
一般が休日ムードで浮かれている日でも、安全安心、さらには時間通り
に移動できることに毎日感謝しています。
そして、この数年で涙が出るほど嬉しかった事を2つ、感謝の気持ちと
ともに。1つ目はコロナの影響でほとんど街中に人の姿が見られなくな
った時期、毎日出勤せざるを得なかった私はかなりやさぐれていました。
そんなある日、出勤の電車の車内放送で「毎日、お疲れ様です。今日も
気をつけて行ってらっしゃい」。2つ目は少し世間に賑わいが戻ってきた
頃、通常のアナウンスの後に「ただいま、進行方向の右手に虹が見えて
います。良ければご覧ください」。本当にきれいな虹が見えました。
どちらもその後は温かい気持ちで過ごすことができました。ありがとう
ございます。毎日色々大変だと思います。皆さまもお身体ご自愛いただき
ながら、これからもよろしくお祈いします。

声をかけてくれた運転士さんと整備士さんへ

東京都世田谷区 Aさん(35歳)

世田谷線が、もっと好きになりました

2年前の夏、今よりまだコロナウイルスに関する情報が少なく、外出自粛を
していた頃。初めて喋った言葉が「でんちゃ!」というくらい、電車好きの
長男は当時2歳。家に籠もりきりも難しく、朝9時頃から毎日散歩に連れ
出していました。上町駅の踏切で、何本も大好きな世田谷線を見送り
ました。本当は乗せてあげたかったけれど、感染状況からどうしても
怖くて。キラキラした目で手をふる息子の横で、切ない気持ちでいた
私達に声をかけてくれたのは、運転士や整備士さん。「電車、好き？」と
渡してくれたのは東急線のカードやシール。息子が喜んだのはもちろん、
当時ほとんど家族以外の人と会話をする機会もなく、寂しかった私まで
本当に嬉しくて救われました。「また乗りに来てね。」と言ってくれた
運転士さん、ありがとう。今は感染対策しっかりして利用しています。
運転席の後ろが息子のお気に入りのポジションです。これからもよろしく
お願いします。

リストラになって都内へ通い続けてた父へ

東京都世田谷区 Tさん(28歳)

無口な父と家

つきみ野駅から30分歩いたところに実家はある。会社に近い場所として私が生まれたとき、バブルの末期であるが、実家は建てられた。幼稚園に通うバスから歩いて会社に向かう父の背中を追い越していたことはまだ覚えている。私が大学生のころ、父はリストラされた。世間ではリーマンショックの後でまだ景気は悪かった。家の周辺では会社が見つからず、中高生の子供を抱える父は、給料を妥協できず都内へ通勤することになった。家族から家から30分も歩かないと駅につかないと文句を言われても、何も言わなかった父。毎日、毎日通い続けて、家の立地の不満も一言も漏らさず、都内の会社へ家族のため通い続けてくれた父。駅に着いても、中央林間とは違って始発駅ではないため座ることもできないのに通勤してくれた父。35年のローンを組んでバブルの中やっと買った家も文句を言われても黙って許してくれてありがとう。

あの時、田園都市線で優しい視線を送ってくれた皆様へ

東京都世田谷区 Oさん(28歳)

心に余裕が生まれた日

桜が咲く時期に第1子が生まれ、初めての育児に苦戦する毎日。娘の1か月健診、母と娘2人で初めて電車に乗る日でした。あと1駅で到着!と思った瞬間、娘が突然大泣き。大慌てで大好きな人形を鞆から取り出し機嫌を直そうとあやしましたが、声が大きくなる一方、、、泣き止まない娘にてんやわんやする母初心者の私。周りに謝ろうとふと顔を上げると、周りにいた方々が笑顔でこちらを見守ってくれていました。その光景をみた瞬間、じわっと目に涙が、、、「孫がこないだ産まれてね、同級生ね」と声をかけてくださる方もいらっしゃいました。初めての子育てで慣れないことばかりで、心に余裕がなかったなと反省しました。帰りの電車、車窓から外を見ると、産まれたときに満開だった桜は散り、綺麗なピンクの絨毯に変身していました。娘と初めての外出、周りに支えられていることに気が付けた特別な日になりました。

ある駅の駅員さんへ

神奈川県横浜市 Kさん(34歳)

言えなかったお礼の言葉

私がまだ幼稚園に通ってたぐらいの時の話です。その当時祖母と一緒に住んでいてよく電車を使ってお出かけをしていました。電車を乗り降りする度に祖母から「電車とホームの間に足を挟まないよう気をつけるんだよ」と口酸っぱく言われていましたが、ある日電車から降りる時に、手に持っていたぬいぐるみを電車とホームの間に落としてしまいました。祖母に激怒されたのと大好きなぬいぐるみを落とした悲しみに、私はパニックになり泣き叫びました。その時すぐに駅員さんが来てくれてぬいぐるみを助けてくれました。本当に素早く対応してくれて、幼い私にとっては駅員さんがヒーローのように思えました。幼い頃の私は人見知り激しくその時も駅員さんに何もできなかったのですが、今更ですがこの場をお借りしてお礼を言わせてください。「あの時ぬいぐるみを助けてくれて、そして私を慰めてくれて本当にありがとうございました!」

東急東横線の電車の車掌さんへ

神奈川県横浜市 Yさん(45歳)

電車好きの息子をその日一番の笑顔にしてくれた出来事

私と息子は、自由が丘の行きつけのパン屋さんに行く途中、菊名駅で特急に乗り換える為に下車。停車中の特急電車に乗り換えるもすぐに車内アナウンスで時間調整でしばらく停車すること。息子はお目当てのパンが早く食べたいようで次第にぐずり始める始末に。息子は電車の顔(先頭車両)と車内の運転士さんに手を振るのがお気に入りなので、気分転換に電車の顔を見ることを息子に提案。息子はご機嫌斜めながらも私の提案をししぶし受け、ホームの先頭へ移動。空腹過ぎていつもの運転士さんに手を振ることも忘れ電車の顔をぼーっと見続ける息子を見ていた運転士さんが、突然運転席から降りて来て、胸ポケットからトレインカード(東急グループ100周年記念)を息子に差し出し、『これからもたくさん電車に乗ってね』と言ってくれました。その瞬間笑顔になり飛び上がって歓喜。空腹も吹き飛び自由が丘まで満面の笑顔でした。あの時の運転士さん、ありがとう!



ShibuyaHikarie号 へ

神奈川県横浜市 Nさん(55歳)

命と心

私の目の前に、金色の衣を纏った貴方が初めて立ち止まってくれたのは、忘れもしない2016年6月9日のことでした。

「渋谷ヒカリエ号」、編成に1カ所だけ刻まれた「ハート」を見つけられたら幸せになれる、という、生きている都市伝説。編成の後ろからくまなく探し続けて、先頭車両までたどり着いて、私はようやくそのハートを見つけ出しました。瞬間、貴方が私に微笑み返してくれたような気がして、思わずにはいられなかったのです。「ありがとう」と。

貴方の存在に、粹な計らいをしてくれた誰かに、そして東急線そのものに。思えば、毎日毎日たくさんの「命」を安全に守りながら、東急線は私たちを運び続け、皆の生活を支えてくれている。その営みをしっかりと築き上げているのは、社員の皆様一人一人の「心」に相違ありません。

私の命もまた、東急線と一緒に走り続けてゆくのでしょう。

これまでも、これからも、もっと、ずっと、きっと。

図書館の司書さん へ

神奈川県横浜市 Aさん(49歳)

娘の成長を感じた喜び

私の娘は本が好きです。学校ではみんなというよりも、一人で図書館で本を読んでいるということを言っていました。そんな娘が先日、山内図書館に行きたいと言い出しました。うちから行こうとすると、東急田園都市線に乗って、あざみ野駅まで行く必要があります。まあまあ面倒なわけです。ですが、本が大好きな娘はきっと、目を輝かせながら図書館の本を読むんだろうなあということが安易に予想できます。それならば行くしかありません。それから娘と山内図書館に通うようになると、司書さんが娘に声をかけてくれるようになり、色々と本を進めてくれるようになりました。娘は司書さんのおかげで、さらに本を読むようになったばかりか、司書さんに自分から話しかけるようになりました。こんな娘の成長を見ることができると、私たちをいつも山内図書館まで運んでくれる東急田園都市線に「ありがとう」と言わずにはいられません。本当にありがとう。

助けてくれたご夫婦 へ

神奈川県横浜市 Sさん(35歳)

ありがとうをもう一度

11月上旬にたまプラーザで助けてくれたご夫婦に改めてお礼を言いたいと思ってお手紙を書きます。1歳の娘を東急の新しく出来た広場で遊ばせ、時間になったので帰ろうとベビーカーに乗せた所、まだ遊びたいとグズグズになる娘に私は1人でバタバタとしてしまい広場の入り口でドリンクホルダーに置いていたコーヒーを床にこぼしてしまいました。慌てて持っていた娘のお尻拭きで拭いていると、後ろにいたご夫婦がご自身のお子さんのお尻拭きを出して一緒に拭いて下さいました。お礼を言い拭いたゴミをもらおうとした所、「1人で大変でしょ。私達は2人居るので大丈夫ですよ。」と言ってゴミまで捨てに行ってくれました。たまプラーザに引っ越してきてまだ日が浅いですが、あの時のご夫婦に出会い改めて素敵な街だなと思いました。本当に暖かい心遣いありがとうございました。

渋谷・東急本店様 へ

東京都大田区 Mさん(56歳)

夢のような瞬間をありがとう

覚えていらっしゃるでしょうか?36年前の今日。あなたの屋上で、フランスからコンサートツアーで来日していた、私の超越大事なアーティストの握手会&サイン会を開いてくださった時の事を。「昭和61年11月29日 東急百貨店本店」と印字された色紙は、その場でサインしてくれたアーティストの姿と、握手と、写真は、当時の瞬間が思い出されて、私の永遠の宝物です。あなたには、本当にありがとうの感謝しかありません。夢のような瞬間をありがとうございました。「SALUS」で、あなたが、閉店される事を知りました。懐かしい思い出の場所が、またひとつ消えていく時代となり、とても残念です。が、新しい姿に生まれ変わられるということ、楽しみにしております。「渋谷・東急本店昭和青春グラフィティ」企画とともに、あなたの屋上で記念撮影したいと思います。本当にありがとう。人生。100年時代、これからも、お世話になります。



あの時、駅で私を助けてくださった方へ

東京都大田区 Iさん(27歳)

ふたたびのお礼

あの時、見ず知らずの私を助けてくださった方へ。あの時は、本当にありがとうございました。数年前、駅で立ちくらみを起こして階段を踏み外してしまい、自分でも何が起こったかわからず内心パニックになっていました。そんな中、私の身体を支えて階段の端に座らせてくださり、どうしたのかを訊いてくださった時、とても安心したのを今でも覚えています。まだ幼いお子さんを連れていらしゃって、「早く行こうよ」とお子さんが声をかける中、「ごめんね、ちょっと待ってね」と言ってまで私を介抱してくださり、申し訳ない気持ちとありがたい気持ちでいっぱいでした。そんな中、的確かつ冷静に対処いただき、大変心強かったです。臆臆とする中で辛うじてお礼をお伝えしましたが、もっとしっかりとお礼をお伝えしたかったです。ですので、この場をお借りして今一度お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

田園都市線の運転士さん、車掌さんへ

神奈川県大和市 Kさん(35歳)

いつも元気ももらっています!

息子が保育園に入園して早々、0歳ながらに電車に手を振ることを覚えました。私が住む中央林間には下鶴間橋という、田園都市線を上から見れる場所があるため、息子をお散歩で連れて行き、電車を見て、2人で手を振ります。これから都心に向かって行く電車に「行ってらっしゃい」と手を振り、中央林間に帰ってくる電車に「おかえり」と手を振るのは、私にとっても癒しの時間です。そして、とても嬉しいのは、ほとんどの運転士さん、たまに車掌さんが、手を振ってくれたり、少し警笛を鳴らしてくれたりすることです。このちょっとしたコミュニケーションが嬉しくなりません。特に私が落ち込んでいるときには、悲しい気持ち・嫌な気持ちも飛んでいきます。なかなかお礼を伝える機会がないため、この場をお借りしてお礼をお伝えさせていただきます。いつもありがとうございます!応援しています!

満員車両の中で優しく声をかけてくれたお姉さんへ

神奈川県横浜市 Mさん(45歳)

満員車両での心温まる思い出

私が高校生だった頃、二子玉川駅から池尻大橋駅間を通学で利用していました。ある朝、車内がいつも以上の混み具合で私の体は斜めになり、足はつま先立ちで右手で掴んでいた吊革に全体重をかけ、左手は教科書とお弁当で膨らんだリュックサックを握っている状態でした。そんな時、目の前の座席シートに座っていたあなたは私のリュックサックにトントンと優しく触れ、笑顔で「私の膝に乗せていいよ」と声をかけてくれましたね。あなたの膝にリュックサックを置かせていただく、私が電車を降りるまで両手で抱えていてくださいました。それまで殺気立っていた私の心が和んだのを今でも憶えています。あれから30年近くが経ち、私はあの時のお姉さんの年代を超えました。お姉さんは還暦近くになられたでしょうか。改めまして、あの時は本当にありがとうございました。これからもお元気でいらしてください。私も優しさを忘れずに生きていきたいと思います。

あの日声をかけてくれた女性と、紙袋をくれた男性へ

東京都練馬区 Uさん(36歳)

優しさが呼んだ次の優しさ

あの日東急線の駅で、荷物を入れすぎた私の紙袋が派手な音を立てて破れた時、母と同じ年位の女性が真っ先に声をかけてくれました。懐かしい関西弁と、気遣いに心底ほっとしました。そして「私の袋、あげるからこれ使い!私これ、手で持って帰れるから!」と、ご自身の荷物をわざわざ出して、エコバッグを渡してくれた優しさに、本当に驚きました。「この袋100均のやから返さんでいいから!」とのお申し出にどうお答えするか迷っていると、今度は同じ年位の男性が声をかけてくれました。「この紙袋、余ってるのでどうぞ」と。私は「こんな短時間でこんな優しい人たちに連続で会えるんか」と感激しました。優しさが、また次の優しさを連れてきてくれた。お二人どちらにもお名前や連絡先等は聞けず、その場でお礼を言ったきりだけれど、あの日もらった心遣いは、ずっと私の心の中のお守りです。ほんまにありがとう。



お肉を買ってくださったお客様へ

神奈川県横浜市 Kさん(61歳)

お客様からの贈り物

私が市が尾駅近くのスーパーでパート勤務を始めてから、もうすぐ5年。もともと接客業が好きで私には、お客様との会話が何よりの宝物でした。ところがコロナ禍によって、お客様との間には、マスク、シールド、最低限の会話という大きな壁ができてしまいました。距離を取ってのマスク越しの接客・・・感謝の気持ちを伝えるのは、笑顔と丁寧なお辞儀が精一杯でした。そんなある日、私はひとりの高齢のお客様から、素晴らしい贈り物をいただきました。「佐賀牛の肩ロースを400グラムお願いします」とのご注文に、いつも通り対面ケースからお肉を目分量で取り、量りにのせたところ、ピッタリ400グラムと表示。すると彼女ははっこりして、拍手をしてくださったのです。私もつられて、笑顔でサムズアップを返してしまいました。こんな嬉しい贈り物は初めてでした。

ブティックの店員さんへ

東京都調布市 Kさん(64歳)

渋谷東急プラザの思い出

2015年に旧東急プラザ渋谷が閉館になったというニュースを見て、びっくりしました。まだ、「渋谷東急プラザ」という名称の頃、就職した息子が初めてののお給料で母の日のプレゼントとして、青い花柄のチュニックを買ってくれました。当時、文京区に住んでいましたが、若者に人気がある渋谷で買い物と食事をしようということになり、家族で出かけました。「わざわざ、文京区から買い物に来ていただきありがとうございます」ポイントカードに氏名と住所を書いていたら、店員のあなたが恐縮してお礼を言ってくれました。昭和生まれの私にはこじんまりした昭和の面影があったフロアが好きでした。お店には素敵な柄が多く、その後も買いに行きました。「いつも文京区からありがとうございます」丁寧な接客のあなたと昭和の面影があった「渋谷東急プラザ」が懐かしく、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたいので、この手紙を書きました。

西小山の街へ

東京都目黒区 Hさん(47歳)

母と私を笑顔でつないでくれる街

私が上京して20年経った頃、いろいろ迷って住宅購入を決めた街「西小山」は、偶然にも、田舎で暮らす母が、学生時代に暮らしていた街でした。その母が、新居を見に来ることになり、品川駅まで迎えに行った私と、目黒駅で目黒線に乗り換えた時のこと。懐かしむ準備をしっかりとしてきたであろう母の表情が、曇っていくのがわかりました。「変わったね、目蒲線。すっかり綺麗になって、面影もないね。」私は苦笑い。でも、西小山駅に着いて改札を出た瞬間、母の表情は、キラキラした笑顔に一変しました。「ねえ、あの駅前の果物屋さん!何も変わってない!うわぁ懐かしいなあ。」「そうなの?私、あそこでよく買うよ!おばさんが親切なの!」歩きながらも所々で昔を懐かしむ母を前に、一瞬、学生時代の母と歩いているような気持ちになりました。ありがとう、西小山。時代が変わっても、母と私を笑顔でつないでくれるその街並みに、感謝の気持ちを込めて。

母へ

東京都大田区 Kさん(35歳)

町も人も。これは、生きている音。

お母さんへ。35年前、お母さんもこの踏切で立ち止まり、こんなふうにお腹を撫でながら、池上線が過ぎるのを待っていたのかな?私も10ヶ月、この踏切を渡って私が生まれた産院に通いました。初めて子供の心音を聞いた時、「電車みたいな音だなあ」と、思ったのを覚えています。分娩室の天井を見上げた時も、この音がずっと聞こえていました。ガタンゴトン、ガタンゴトン。この天井の下で、お母さんも頑張って私を産んでくれたんだね。元気に生まれてきてくれた息子も、この町で育ち、そしてもしかしたらいつかはここを離れてしまう日が来るかもしれない。だから、一日一日、この一瞬も忘れないように、たくさん思い出をこの町で作ってあげたいなと思っています。ガタンゴトン、ガタンゴトン。これは生きている音。お母さん、私を産んでくれて本当にありがとう、ありがとう。



東急ベル、東急ストアの皆様へ

東京都町田市 Yさん(60歳)

東急ベル、東急ストアにありがとう

東急ベルの皆様、東急ストアの皆様、ありがとうございました。先日一家でコロナに感染しました。熱や喉の痛みで食べられるものが限られ、準備してあった非常食だけでは足りなくなりました。幸い私は、すぐに熱が下がったのですが、買い物に行くことはできません。ネットスーパーは初めてだったのですが、東急ストアに頼むことにしました。いつもの商品が揃っていて何でも注文できるのが有難かったです。何よりアイスクリームを注文できるのには、感激しました。高熱があり食べられない時には本当に助かりました。お肉や野菜も美味しく元気ができました。毎日状況が変わるので、朝注文すれば午後には届くことが大助かりでした。コロナと分かっていたと思われませんが、お届けも丁寧でした。お蔭様で無事快復しました。対面しないようにしていたのでお礼が言えなかったのですが、街中でベルカーを見ると思わず手を振り「ありがとう」と言いたくなります。

佳作

助けてくれたあなたたちへ

神奈川県横浜市 Hさん(61歳)

渋谷センター街での救助要請

からだのなかから「ピシッ」と音がすると同時に強い電流が脳に到達するのがわかった。そしてさらに鋭い痛みがすぐに知覚される。またやってしまった。ギックリ腰だ。会社からとにかく家まで帰らなければならない。駅方向に向かって極端に歩幅を狭めて摺り足で歩きだすものの激痛との闘いに敗れ何度も膝をついてしまう。渋谷の街を牛耳っていた集団のヤンチャそうに見えるくわえ煙草の若者3人組が前方からやってきた。身の安全のためには立ち上がって道を譲らなくてはならないのに一歩も動けなかった。冷汗と脂汗が同時に流れ出す。オヤジ狩りか、拉致られるか……。けれども、彼らは無言で両側から僕の肩をかかえてゆっくりタクシーに押しこんでくれた。後部座席で横になりながら涙がこぼれたのはありがたかったからなのか、道路の継ぎ目をひろう振動でさらに押し寄せてくる痛みのせいなのかは自分でもわからなかった。

菊名駅13時49分の森林公園行きの特急で出会ったあなたへ

神奈川県横浜市 Sさん(68歳)

車内に優しい風がふいた日に

先日は、あたたかな心を届けてくださり、ありがとうございました。あの日の情景は、今も鮮明に私の心に残っています。いつものように私は、車内で折り紙をしていました。そしてあのとき…降り際に、小物入れから4cm四方にもみたくない三角形に折った小さな紙が二十〜三十枚も車内に舞い落ちてしまったのです。その瞬間、手を差し伸べてくださった方が、あなたでした。1分にもみたくない電車の乗換時間が迫るなか…"あっ、もう大丈夫ですから"とあきらめかけていた私が伝えても、あなたは黙々と拾い続けてくださり…"折り紙にしている紙なんです"と思わずつぶやいた私に"それならなおさら大事じゃないですか"と言って、ていねいに最後まで全部拾いきってくださいました。"まだまだ世の中捨てたもんじゃない"と、私は心の中で叫んでいました。今でも心から、ありがとうの気持ちでいっぱいです。

私が救った人へ

神奈川県川崎市 Nさん(58歳)

おせっかいな勇気

もう40年も前の話だ。その日はどうしても出席しなければならない大学の講義があったのに、私は寝坊してしまい遅刻寸前。二子玉川から大井町線に乗り、なんとか間に合ったと思っていると、発車間際に乗り込んできた女の子が突然車内でしゃがみ込んだ。気分が悪いと言う。私は上野毛の駅で彼女を降ろしベンチに座らせると、改札にいた駅員に事情を話してホームへ来てもらう段取りをつけた。その後倒れそうになっている彼女の元へ戻り、売店でお茶を買いながら駅員が来るまで様子を見てくれと店員に頼んだ。「ごめん、もう行かなくちゃ」次の電車に乗り込む際、御茶を渡して謝ると、彼女は「ありがとう」と一言言った。席を譲ると「年寄りじゃない」とか「結構です」と言われることが続き、声を掛けることが嫌になっていた時だったからその言葉は心に響いた。私の方こそありがとう。おせっかいをしてもいいと許されたようで、勇気ももらったよ。



10号車でベビーカーに乗っていた赤ちゃんへ
東京都世田谷区 Yさん(24歳)

10号車の小さな君へ

土曜お昼の三軒茶屋駅は混んでいて、憂鬱な僕はホームの端に逃げたんだ。なるべく人の顔を見たくなかったから。

10号車のホームドアの前で、点字ブロックとドアに反射した自分のスニーカーを交互に見ていたんだ。押上行きの各駅停車は最後尾の車両でも混んでいたけど、他の車両よりはまじだっただろうか、なんて思いながらつり革に身体を預けてた。そううつむいていたら、ベビーカーに乗ってた君と目が合ったんだ。最初は不思議そうに僕を見つめてたよね。でも、ちょっと僕が笑顔を作ったら、君は両手両足をパタパタさせて、キャッキョ言しながら僕にニコニコをくれたんだ。作り笑いは本当の笑顔になって、あったかい気持ちになれたんだ。悩みなんて吹っ飛ばささ。

下を向いていたから君に出会えたと思うと、時にはうつむくことも悪くないと思えたんだ。ありがとう。

大井町線内で出会った女の子へ
神奈川県川崎市 Sさん(51歳)

失恋とボタン

大学生の頃、ひどい失恋をした。彼の気持ちはもうこれっぽっちも私にはない、そんなのわかっているけれど…現実を受け止める事が出来ず、泣いてばかりの日々を送っていた。悲劇のヒロインと化した私は駅でカップルを見かけるだけで涙が出る始末。そんなある日、通学途中の大井町線でもふと涙が…流石に電車の中ではまずいだろう、と思ったその時、正面に立っていた女の子が、私のセーターに付いているボタンを"えいっ"と小さな指で押した。それは中に色とりどりのビーズが散りばめられた大きなボタン。すかさず"すみません!"と申し訳無さそうに謝るお母さんの横で、はにかむ可愛い女の子。どうもずっとボタンが気になっていたらしい、まあ押したくなる気持ちもわかる。

ふと気づいたら、私は笑っていた。ありがとう、あの時の女の子。ドアの窓から眩しい日が射していた。

寿司職人さんへ
東京都目黒区 Mさん(35歳)

渋谷の小さなお寿司屋さん

あれは、もう6年前。お休みの予定を切り上げて、急ぎの仕事をやろうとした日。なのに仕事はうまくいかず、しょんぼりとした帰り道。こんな日は、ぜいたくでもしないと、やってられない。だから私は、渋谷駅の地下にあった、あの小さなお寿司屋さんに入りました。

平日の遅くだったので、お客は自分ひとり。だから、気付いてくれたのでしょうか?頼んだお寿司と別に、あなたが出してくれた、小さなひと皿。それは指先ほどの、かわいいお寿司たち。マグロにイカにサーモン、玉子はちゃんと海苔で巻かれて、サバにはシソも添えられて。

「ちょっと作ってみたんだ、どうかな?」思わず笑顔になりました。

あれから仕事は変わり、渋谷も大きく変わって、お寿司屋さんはないけれど。あのサプライズは今も、思い出だらけのこの街を彩ります。今もおいしいお寿司と、かわいいお寿司を握っていますか?

本当に、ありがとう。

新丸子駅(東急ストア前)のベンチへ
東京都三鷹市 Kさん(46歳)

拝啓 新丸子駅のベンチ様

20年ほど前、結婚を機に田舎町から新丸子へ越してきた者です。多くの親族と友達、大自然に囲まれて育った私にとって、都会暮らしはとて孤独でした。長女を授かってからは、誰にも頼れない子育てに不安と疲れが溜まり、涙が止まらない日もありました。そんなある日、多忙だった主人と大喧嘩になり「私は全てを捨ててここに来たのに!」と悲観がピークに。その翌日、東急ストアで買い物を終えた私は、無意識に店舗前の貴方に座りこんでいたのです。どれだけの時間がたち、何人が前を通り過ぎたのか、私の目に映っていたのは数メートル先の駅の改札機だけ、。「あの改札を通過して田舎に帰ろう」呆然とその想いを繰り返しているうちに娘が泣き出し、ハッ!として帰宅しました。5年後、貴方にちょこんと座る息子と一緒に、幼稚園から戻る娘を待つ私はとても幸せでした。

あの時あの場所に私を留めてくれてありがとう。



天国におられる田村校長先生 へ

東京都町田市 Kさん(66歳)

つくし野の街に残る環境学習のための「畑」

つくし野の畑で野菜を収穫する子供たちの笑顔がはじけわらい声が響いています。先生が地域や保護者に、自分や他者の命、生きもの、食べ物大切さを体験的に学ぶ重要性を説いたのが17年前。今、子供や親の世代は豊かな知識があるようで体験が伴いません。知っているもやったことはなく、わかった気になって問題を生じていると言われます。つくし野ピオトーププロジェクトと名付けられた活動は校内ピオトープ化から地域全体に活動範囲を広げ、参加者が増え、内容も充実。巣箱づくりやプールのヤゴ救出などから、コロナ禍でも活動を継続できる野菜栽培に重心を移し、生き物や食べ物について総合的に体験的に学ぶ活動に整理され進化を続けています。開催延260回、参加者1.6万人。体験的環境学習として、この街に住み続けたいと思える街づくりとして評価されています。ありがとうございます先生。活動が長く続きますよう天国から応援してくださいね!

佳作

駅員さん(&見知らぬ方?) へ

神奈川県大和市 Sさん(55歳)

執念の再会

手袋を片方失くしました、安物だし、ほつれて大きな穴が開いていました、これでは尋ねるのも恥ずかしい、もう諦めるかと。でもやはり諦めきれず、思い切って一週間後に、T駅で駅員さんに訊いてみました。私は難聴なのでその旨を伝えると、すぐにボードで筆談して下さいました。どこかに電話で問い合わせ下さったようで、少し待っていましたら、ボードに「それらしいのがある」と。その文字を目にした時、私は心の中で狂喜乱舞しました。お隣のC駅に保管されているとのことで、自転車で向かいました。でも実物に会うまでは別人かもしれないし、ぬか喜びをしたらいかなぞと自分に言い聞かせ。そして、C駅で落とし物所へ通され、「こちらですか?」と出て来た物は、正に私の物でした。もう超〜嬉しい、人生の中で嬉しかったことのトップ10には入りますね。拾って届けてくれた方、ご対応下さった駅員さん、本当に有難うございました!

2019年2月 大岡山駅にいらした駅員さん へ

東京都大田区 Kさん(53歳)

駅員さんからのエール

息子の中学受験のときのことです。
2月の受験スタートから苦戦を強いられ、
受験会場に向かう足取りも重く、思いつめた表情で
改札を通ったのでしょう。大岡山駅の改札横から
「頑張ってください!」と明るい声が届きました。
「えっ?」と思って振り向いた先には
駅員さんの優しい笑顔がありました。
その方のエールのおかげで息子も私も力が抜け、
力強いパワーを頂いたことで元気に受験会場へ
向かうことが出来ました。涙が出るほど嬉しいエールでした。
息子は高校1年生になり、友だちにも恵まれ、楽しい学校生活を
送っています。力強いエールを送ってくださった駅員さん、
ありがとうございました。

あの日の優しいお姉さん へ

神奈川県横浜市 Oさん(30歳)

ほどけた靴紐

子どもが生後2ヶ月の頃、まだ睡眠もろくに取れず、
初めてのことで、楽しむというより、ヘトヘトで育児をしていました。
初めての小児科クリニックで、予防接種を受ける日。
親の私のほうが緊張していて、早めについてしまったので、
近くの薬局をふらふらと気を紛らしながら時間を潰していました。
抱っこ紐で子ども抱っこしてたのですが、途中でスニーカーの靴紐が
解けてしまい…抱っこしたままでは結ぶことが出来ず、
(小児科クリニックでベッドに子どもを移動させてから結ぼう、
気をつけて、気をつけて…)と歩いていると、明るく優しいお姉さんが
「靴紐ほどけてますよ! 結びます」と優しい手を差し伸べてくれました。
この方の優しさに、涙が溢れそうになりました。
今でも小児科クリニックに行くたびに思い出します。
本当にありがとうございます。お姉さんに幸せがあることを願っています。